

## コロナ禍の大阪・関西万博

私も途中から参加している「夢洲の都市計画変更を考える市民懇談会」（夢洲懇談会）は、コロナ禍の大阪・関西万博を見直すよう BIE（博覧会国際事務局）に手紙を送ることになった。草稿を担当することになり、1 ヶ月ほど前に下記のようにまとめた。なお、草稿は修正され、英文に翻訳して昨日 BIE に送付された。

新型コロナウイルス感染拡大、パンデミックは全世界、日本、そして大阪の地を揺るがしています。これまで経験したことのないコロナ危機は、大阪経済を直撃し、市民生活にも深刻な影響を及ぼしています。先の見えない自粛生活、底なしの景気悪化により、大阪市民の不安が高まっています。

私たち「夢洲懇談会」は、大阪の経済と生活を揺るがす重大問題と考えて、大阪府と大阪市、それに万博協会などに緊急の申し入れをしてきました。今はコロナ対策に全力を注ぐべきで、不要不急の大規模開発をただちに停止すること、大阪・関西万博の会場予定地「夢洲」の再検討、万博などの経費圧縮を求めています。

コロナ危機は二次、三次と続き長期にわたると考えられ、大阪の経済と財政とともに、私たちの生活、暮らしのあり方も変えなくてはなりません。感染症の専門家は「3密」、密閉・密集・密接を避ける、「新しい生活様式」を求めています。世界的にも「ソーシャル・ディスタンス」（社会的距離）をとって行動することが提唱されています。これは五輪や万博のような国際的な大規模イベント開催を困難にするものです。

日本政府は 2019 年 12 月 27 日、2025 年大阪・関西万博開催計画「登録申請書」を貴博覧会国際事務局（BIE）に提出しました。本年 6 月に予定されていた BIE 総会で登録申請書が承認され、万博基本計画がつけられ、本格的な誘致活動をスタートさせるはずでした。BIE 総会とともに、ドバイ万博も 1 年延期となり、2025 年に大阪で万博を開催できるかどうか不透明になっています。

大阪・関西万博は大阪湾の人工島「夢洲」を埋め立て、2025 年 4 月 13 日から 10 月 13 日までの 184 日間、2800 万人の来場を目指しています。世界各地から空路での日本への移動、万博会場までのアクセス、パビリオンなどで「3密」が懸念され、「ソーシャル・ディスタンス」を確保することは不可能です。長期にわたる世界的なコロナ危機により、日本政府が開催申請したような大規模な万博は、安全面と財政面から事実上できなくなります。これまでも、私たちは会場予定地「夢洲」の環境、南海トラフ巨大地震などの災害リスク、SDGs にふさわしい万博会場について問題を投げかけてきました。現在進行しているコロナ危機は、万博開催の是非そのものを問いかけています。BIE として、あくまで 2025 年に大阪・関西万博を開催したいのであれば、万博の規模縮小と会場変更が不可避だと考えます。

長い歴史をもつ万博の原点に立ち返り、BIE の真摯な再検討を求めるものです。

(2020 年 6 月 26 日)